

十小だより



令和7年度10月号 No. 632

令和7年9月30日発行

武蔵村山市立第十小学校

校長 今井 一馬

【教育目標】

ーくすの木のように優しくたくましくー

- ・やる気いっぱい（自分で考える子）
- ・笑顔いっぱい（自分も友達も大切にする子）
- ・力いっぱい（丈夫でたくましい子）

<http://www.city.musashimurayama.lg.jp/school/mmc10s/>

原点に立ち返って

副校長 水間 信護

先週から、2名の教育実習生がいらっやっています。

ゆざわ さちえ 先生（3年1組）
 かすえ ゆなほ 先生（保健室）
 湯澤 幸恵 先生（3年1組）
 彼末 祐七歩 先生（保健室）

子供たちとすぐに打ち解け、楽しく実習をスタートしています。期間は、10月24日（金）までの4週間となります。温かく受け入れてくれている子供たちに感謝しています。



【湯澤先生】



【彼末先生】

教職歴20年を超えてしまった私にも、教育実習生のときがありました。机上での学びを積み重ねてはいたものの、いざ子供たちの前に立ったときは、大変緊張しました。未熟な自分でしたが、子供たちと全力でかかわる中で、たくさんの素敵な思い出をつくることができました。また、担当教員や校長先生からもたくさんの学びがあり、教育者としての大切な原点の一つとなっています。

保護者・地域の皆さんも、人生の中で大切な原点があることと思います。子供たちは、まさに今、人生の基盤となる原点を、家庭や地域、学校生活で築き上げる大切な時期を過ごしています。私自身、常に原点に立ち返りながら、大切なものを見失わないように子供たちとかかわっていきたいと考えています。

さて、本校では、異学年でのかかわりを大切にしています。1年生と6年生の教室を隣にするなど、教室配置も工夫をしています。学校は、学びの段階があるので、当然同学年で時間が多くなりますが、異学年での学びの価値も大きいと考えています。同学年でも、人の見方・考え方は様々ですが、それぞれの学年（年齢）でしか見えないもの、気づけないこともたくさんあります。そういった異なる視点や考え方に出あえることが、学校で学ぶ意義でもあると思っています。

先日、第2回の「たてわりの日」を過ごしました。今回は、遊びだけでなく、個別の時間もたてわり（異学年）で行いました。教わってわかることもあれば、教えてわかることもあります。いつもと違う雰囲気にもドキドキしながらも、充実した時間を過ごすことができました。

学校も現実社会も、様々な立場や年齢、考え方の人たちが集まる場です。私たち教員や保護者・地域の皆さんも、子供たちを中心に縁あって集まった一人一人です。子供たちが、様々なかかわりを通して、豊かで力強い人生の基盤・原点をつくり上げていけるよう、私たち大人が手を取り合って支援していきたいと思います。今月もどうぞよろしくお願いいたします。



【異学年で学ぶ個別の時間】